

令和 7 年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書 (P)	部局名	経済環境部
款	項	目			課 名	観光課
6	2	1	観光費	294		

I：事業概要

施策事業名	観光振興事務					
事業目的	観光に関する各種情報をわかりやすく整備し、犬山への誘客増を図るとともに来訪後の利便性と満足度を高める。					
事業内容	●全体の計画 ・観光に関する適切な情報発信を常時・継続して行い利便性と満足度を高める。 ●主な事業内容 ・犬山市の観光情報ホームページについて、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら管理。 ・公共駐車場の空き状況や犬山城の待ち時間表示等、観光客に必要な情報をリアルタイムで正確に提供。 ・各種イベントなどにポスター等の広告物を提供し、観光振興を図った。 ・SDGs観光まちづくりに関する情報を発信し、観光客へのマナー啓発を図った。 ●主な決算の内訳 ・犬山市観光情報ホームページ管理業務委託料701,800円 ・情報誌定期購入代19,800円					
事業の成果・効果	犬山観光情報のホームページ（観光ナビ）は、R6年度に大規模改修を実施し、R7年度も継続運用を行っている。観光客に対し犬山の魅力を伝え、来訪意欲を喚起する点において極めて重要であり、「犬山観光の玄関口」という位置づけである。ホームページ内ではイベント告知をはじめ、公共駐車場利用状況、さらにはSDGs観光まちづくりの取り組みに対する情報発信など、様々な観光に関する情報を積極的に発信しており、旬な情報提供を心がけ常に見やすさ、わかりやすさに配慮しながら情報更新するなど、観光振興における重要な役割を十分に全うしている。また今年度はふるさとイノベーションコンテストが開催され、観光課題解決に向け実証事業を実施。実証事業として導入した旅行特化型SNSショート動画アプリを事業者や観光客に利用してもらい、あらたなショート動画を用いた観光宣伝事業展開のきっかけ作りの年となった。今後はこのアプリも犬山観光ナビと両輪で活用することで、より大きな集客効果を図ってきたい。					

II：個別事業内訳

（単位：千円）

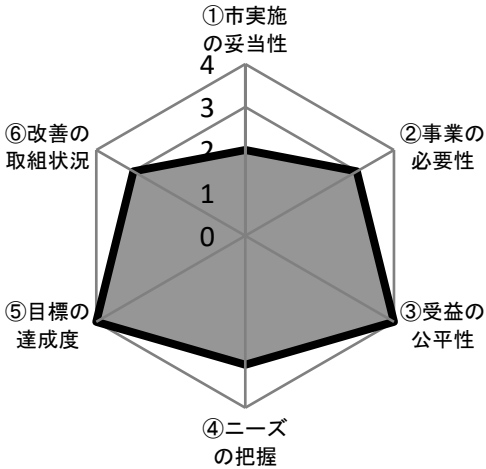
（見直し・点検進捗評価は4段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光振興事務	797	0	797	100%	4	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	797	0	797	100%	4	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		789	797	808
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	789	797	808
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	市、観光協会、民間事業者で連携して実施しており、民間だけでは多様で充実したサービスの提供は困難である。
②事業の必要性	3	市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業である。
③受益の公平性	4	事業の主たる対象は不特定多数の観光客であり、特定の個人・集団に偏ることなく、公平性は保たれている。また、ホームページ等で発信される内容は観光客だけでなく、すべての市民に対しても楽しく有益な情報提供になるよう努めている。
④ニーズの把握	3	普段より市、観光協会で定期的な検証も行いつつ、城下町を中心とした住人、事業者等にも意見を聴取し、その集約に努めている。
⑤目標の達成度	4	犬山城登閣者数、市内宿泊者数ともに、前年度を上回り、適切な観光情報の発信により、多くの来訪者を獲得することができ、大きなトラブルなども無かったことから、当初の目的は達成できたと判断される。
⑥改善の取組状況	3	ニュートラベルアプリを観光宣伝ツールとして導入し、事業者のDX化推進を図ることが出来た。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	民間事業者と連携した事業から生まれた、旅行特化型SNS動画アプリ「NewTravel」とコラボし、市内事業者のDX化、市の観光ツールとしても新たな展開を進めるツールとして事業を実施することが出来た。犬山観光ナビと両輪での活用方法を模索しながら、新たな顧客獲得に向けた展開をすすめる。犬山観光ナビとNewTravelアプリを活用することで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、及び親和性を高める犬山の観光情報ツールとして活用を進めていきたい。
令和8年度に見直しを実施している事項	犬山観光ナビとNewTravelアプリを活用することで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、及び親和性を高める犬山の観光情報ツールとして活用を進める方向性を見出していく予定
今後見直しを検討する事項	犬山観光ナビを中心に、Instagram、X、NewTravelアプリなどのSNSを中心とした宣伝を今後より注力していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
HPのみならず、SNSを含めた犬山観光情報の内容の更なる充実と鮮度の維持向上。	R6ホームページリニューアル後、継続して適宜内容の精査を進めることに注力していく。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけ、SNSでの発信についても、さらに積極的な展開を広げていく必要がある。新たな観光ツールとしてNewTravelアプリについても積極的な活用を検討して、観光客の獲得に努めていく。またインバウンドに対応した情報発信の方法についても検討を広げ、精度を高めていく。また市や観光協会主催事業以外の情報集約と発信について検討を行う。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	294

部局名	経済環境部
課 名	観光課

I：事業概要

施策事業名	観光協会運営補助
事業目的	観光振興に必要な知見を有する犬山市観光協会に対して運営費補助を実施することで、近傍から広域にかけての観光宣伝や海外を含むメディアセールスを行い国内誘客やインバウンド需要の取込みを推進する。また観光協会が地域において観光を通じたまちづくりの中心的役割を果たすことで、持続可能な観光まちづくりを継続・発展させる。
事業内容	●全体の計画 ・観光振興に必要な知見とノウハウを有し、観光施策推進の重要な連携相手である（一社）犬山市観光協会に対し、継続した運営費の補助を行う。 ●主な事業内容 ○犬山の観光推進に関する体制の確立 ・市とともに観光振興を協働して担う観光協会の人件費の一部を補助することで事務局体制を維持・強化し、新たな観光戦略への挑戦、近傍～広域圏の観光誘客、招聘等、観光を通じたまちづくり等、法人ならではのスピード感と機動力を活かした観光推進を実現。 ●主な決算の内訳 ・犬山市観光協会運営補助金 29,588,954円
事業の成果・効果	（一社）犬山市観光協会は、信頼性、柔軟性、旅行会社経験者の専門的知識等、組織の強みを活かし観光振興を進めており、市という公共の団体だけでは成し得ない宣伝・営業活動を行うことができている。幅広い事業展開も可能にしており、現在は香港、台湾、タイなどのアジア圏を中心としたインバウンド需要への対応やセールスを実施。国内誘客・宣伝も充実出来ており広報についてもメディア掲出を頻度高く実現することで多くの観光誘客や認知度向上を果たしている。また犬山祭や花火等催事の実施や持続可能な観光まちづくりの為の各種取組みにおいても市と一体となって実施しており、犬山観光の中核としての役割を担っている。

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

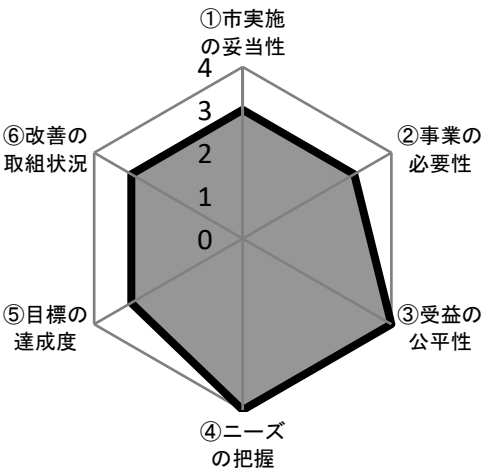
(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光協会運営補助	29,589	0	29,589	100%	3	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	29,589	0	29,589	100%	3	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		28,310	29,589	31,846
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	28,310	29,589	31,846
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光協会は、市単独では実施不可能な迅速かつ的確な誘客・宣伝活動を実現するために必要不可欠であり、公益的な役割も果たしている為、組織として安定し持続可能な体制となるよう、市が運営を支援する必要がある。
②事業の必要性	3	市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業であり、中心的役割を担う協会の存続は必要性がある。
③受益の公平性	4	協会への補助を通じて不特定多数の観光客への利便性向上に資するものであり、事業効果としての公平性は保たれている。また、観光振興、観光まちづくりにより、すべての市民に対しても有益な取組みとなるよう努めている。
④ニーズの把握	4	城下町地区住民との意見交換や、事業者対象の宣伝事業説明会等を通じて、課題の把握と共有、改善のための提案・実践に努めている。
⑤目標の達成度	3	一般社団法人としての責任感、使命感を持って観光宣伝事業や自主事業等を行い犬山観光を前進させている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	犬山市観光戦略に基づき、観光協会の役割・事業内容の精査を随時行った。「SDGs観光まちづくり」については、SDGs観光まちづくり会議をはじめ、WEBでの情報発信など、観光協会の今後の主要な活動として強く意識し継続して取組むことができた。
令和8年度に見直しを実施している事項	魅力的な観光コンテンツを市と観光協会が連携し事業者も巻き込みながら企画し造成を進める。令和7年度には観光協会も新体制となり、新たなる人材も採用した。令和8年度も人材の新規採用を検討し、あらたな組織作りと後進の育成に努めていく。加えて観光協会が観光振興・観光まちづくりの中核として更なる存在感を高められるよう、役割・内容・組織体制も含め精査・検討を進める。
今後見直しを検討する事項	観光宣伝や広報活動、インバウンド需要の取込み及び新規観光コンテンツ造成を市と連携しながら(一社)犬山市観光協会が中心となって進め、宿泊者数と消費額の増加を図る。加えて観光振興の中核としての役割を果たす為、観光協会の組織体制強化を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
新たなる人材の確保及び育成を進め観光を切り口とした「地域づくり」が進むよう、取組み内容を精査・充実させていくこと、及び観光が産業として成長すること。	新たな収益事業の実施等、自主財源の確保に向けた取り組みを推進するなど、安定的な運営に向けた連携・指導を行う。加えて持続可能な観光地を目指した「観光まちづくり」推進の中核として役割を果たせるよう、地域での存在感を増していくことを期待する。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	294

部局名	経済環境部
課 名	観光課

I：事業概要

施策事業名	観光客誘致
事業目的	(一社) 犬山市観光協会と連携したキャンペーン等の宣伝活動の実施、各種協議会との協働による広域での観光PR活動等を通じて犬山観光の価値と魅力を高めるとともに、ブランドイメージを向上させ、全国から犬山への観光誘客を図る。特に首都圏・関西圏やお城イベントでの認知度向上と誘客を進める。
事業内容	●全体の計画 ・観光宣伝、各協議会との連携、祭等の催事、コンテンツ造成等を継続して適切に実施。 ●主な事業内容 ○年間を通じた犬山観光誘客宣伝活動の実施 ・名古屋鉄道(株)、(一社) 犬山市観光協会と連携し、年間(上期・下期)を通じた観光誘客宣伝活動を実施。 ○まつり・催事の実施 ・犬山祭保存会等と連携し犬山祭を開催、秋には犬山祭宣伝事業としてからくりまち巡りを実施。夏には各務原市なども加入する実行委員会により日本ライン夏まつりロングラン花火を実施。 ○キャラバン等による観光宣伝の実施 ・名古屋、首都・関西圏で集中キャラバン、鉄道駅を活用した観光宣伝、近傍地での誘客活動、お城に関するイベントでの認知度を向上させる取組みを実施。 ○地域連携、広域連携による観光宣伝の実施 ・県、各種協議会、他市町との連携による観光宣伝、集客イベントを実施。 ○国内、国外の観光客受入に関する体制構築とおもてなし事業の実施 ・城下町中心に警備体制を整え、住民の安全確保と周辺道路の混雑緩和、円滑な観光客誘導を図った。 ・持続可能な観光地づくりを目指し、関係者間による意見交換、事業者交流会、城下町地区での環境美化活動や来訪者へのマナー啓発等を実施。 ○観光コンテンツの造成 ・(一社) 犬山市観光協会と連携し、シェアエコの仕組みも活かし体験コンテンツ造成を実施。 ●主な決算の内訳 ・犬山城下町交通誘導警備委託料 31,550,310円 ・各協議会等負担金 59,427,832円 (飛騨木曾川、国宝城郭都市、犬山観光プロモーション協議会、犬山祭企画委員会等)
事業の成果・効果	令和7年度は犬山祭や日本ライン夏まつり等の催事を予定どおり開催し、お城エキスポやその他イベント出展も積極的に行い、本市の強みを活かした誘客宣伝活動を行うことが出来た。広報活動も順調でテレビ放映や雑誌掲載など数多く実現し、インバウンド需要の取込みにおいても、台湾等を中心に積極的なセールス活動を実施し外国人観光客の大幅増加に繋がった。県内、木曾川流域、国宝五城、各務原市連携等、広域イベントや誘客活動も充実し、市民が担い手のコンテンツ造成や花手水、ポートレート等の自主事業は徐々に拡がりを見せることが出来た。持続可能な観光まちづくりの実現の為、警備体制の強化や仮設休憩所の設置、シルバー人材センターによる清掃活動等受け入れ環境の整備推進とともに関係団体による「SDGs観光まちづくり会議」より、事業者の連携を深めるワークショップや交流会の開催、ワークショップから生まれた協働イベント「犬山ひんやりプロジェクト」の実施など、課題の把握と共有、必要な取組みについて議論を深めることが出来た。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

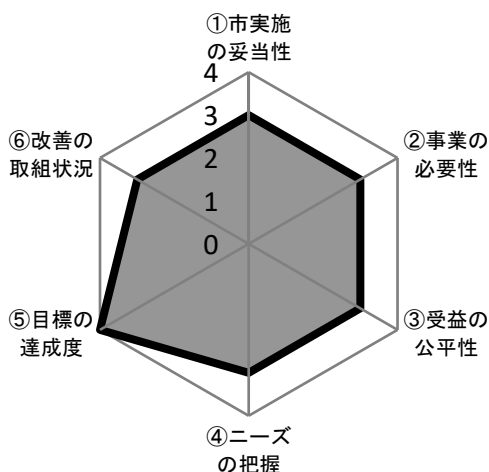
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光客誘致	93,480	79,001	14,479	15%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	93,480	79,001	14,479	15%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		88,987	93,480	96,541
財源内訳	国県支出金	1,932	10,788	0
	地方債	0	0	0
	その他	61,963	68,213	47,320
	一般財源	25,092	14,479	49,221
一般財源の割合		28%	15%	51%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客を呼び込むだけでなく、住民が誇れるまちづくりに資する取組みが必要であり、市が主体となって実施することが望ましい。
②事業の必要性	3	観光振興による市域全体の活性化を目指すことで、市民が広く益を享受するものであり、事業継続の必要性がある。
③受益の公平性	3	観光客を誘致し交流人口が増えることで、市内における消費活動が活発に行われ、市域での経済的効果をもたらし、市民全体に恩恵がある。
④ニーズの把握	3	SDGs観光まちづくり会議によるワークショップ等で、事業者側のニーズと課題の把握を行うことができた。また、観光コンテンツ造成推進事業で担い手・利用者から聞き取りを行うなど課題把握に努めている。
⑤目標の達成度	4	インバウンドは順調に伸びており、市への入込数、宿泊者数等当初の目標を達成することができた。あわせて、持続可能な観光地を目指した取り組み強化もSDGs観光まちづくり会議を中心に進めることが出来た。
⑥改善の取組状況	3	新たな観光宣伝事業の妥当性、経済性、安全性及び、持続可能な観光まちづくりという概念を常に考慮しつつ、今後も積極的な観光振興を展開していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	犬山祭や日本ライン夏祭り等の通常の誘客・宣伝の実施のほか持続可能な観光まちづくりのため、SDGs観光まちづくり会議を中心とした観光まちづくりの取組みを積極的に行い、観光事業者とともに作り上げた事業である「犬山ひんやりプロジェクト」や、犬山祭の車山に乗る子供のトイレマップ作成事業を実施するなど、事業者間の連携を強める取り組みも実施し、観光地犬山として課題の把握と対応の検討を進めることが出来た。
令和8年度に見直しを実施している事項	SDGs観光まちづくり会議からの新たな展開を進め、持続可能な観光地のための取り組みを強化していく。あわせて、休憩所の設置や夏の暑さ対策なども継続的に進め、あらたなるアイデアがあれば、実践していき、観光地の魅力を高め、閑散期も誘客と消費増加を図る取り組みを継続実施する。
今後見直しを検討する事項	業務全体の見直しを行い犬山観光の質の向上を図る。観光協会と連携し効果的な広報・誘客・宣伝活動やコンテンツ造成を進め宿泊者数と消費額の増加を目指す。城下町地区を中心とした課題改善のため受入体制の充実を図るとともにマナー啓発や意識向上等の取り組み、事業者の繋がりづくり等の取組みも進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
各事業の実施内容精査。広域連携の効果的な事業内容の検討。城下町地区を中心としたSDGs観光まちづくりの継続推進。	広域連携に関しては犬山市の強みを活かした取組みを中心に進めていく。観光まちづくりについては、市、観光協会をはじめ各団体、民間事業者とも引き続き連携して持続可能な仕組みを検討した上で各団体が持つ強みを活かした役割分担を整理し取組みを推進していく。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	経済環境部
款	項	目			課 名	観光課
6	2	1	観光費	294		

I：事業概要

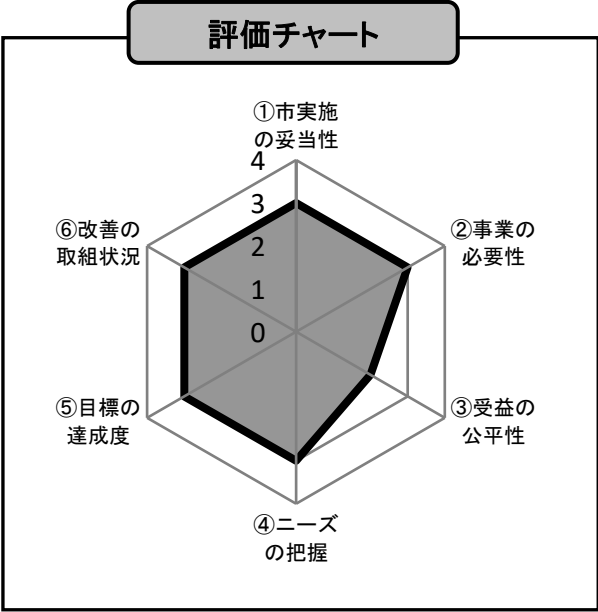
施策事業名	観光案内所運営
事業目的	観光案内所の適正な管理運営と案内機能を充実させることにより、観光客へのおもてなしと満足度を高める。
事業内容	●全体の計画 - 観光案内所の常時適正な管理運営と案内機能を充実。 ●主な事業内容 - 犬山駅及び犬山城前の2カ所の観光案内所を通年で開設。来訪者に対して正確で丁寧な観光案内を実現。 - 運営は観光振興に関する知見とノウハウを豊富に有する（一社）犬山市観光協会に対し委託業務として発注。 - 国内外からのお客様に対し接遇の精神を持ち、かつ適切に対応し安定的な管理体制を実現。 ●主な決算の内訳 - 犬山観光案内所運営委託料 20,720,010円（犬山駅、城前）
事業の成果・効果	観光客を迎える玄関口として犬山駅及び城前の2箇所で観光案内所を設置し運営している。来訪者数は増加しており、特に外国人観光客の増加が多く見られ、適切で丁寧なおもてなしを実現し来訪者の満足度向上に努めている。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光案内所運営	20,878	20,878	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	20,878	20,878	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		21,188	20,878	25,177
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	21,188	20,878	25,174
	一般財源	0	0	3
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客の玄関口にもなる観光案内所は、観光地には必須であり、情報発信とおもてなしの場として市が主体として実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業である。その中で観光の玄関口となる案内所の運営は、ストレスなく快適な観光を実現するため、必須である。
③受益の公平性	2	観光案内所を訪れるのは、多くが観光客であるものの、市民も参加するイベントや、市民・観光客に関わらない多様な情報発信を行っており、市民も恩恵を受けている。
④ニーズの把握	3	2つの観光案内所には観光客からの多くの意見・提言が寄せられ、その都度、市、協会の双方で共有、対応し改善に努めている。
⑤目標の達成度	3	丁寧な対応や接客を常に意識し、観光客だけでなく、訪れる方の満足度の向上を図ることができている。
⑥改善の取組状況	3	観光客に対する玄関口だけでなく、今後も、市民も広く利活用できる場としての位置づけとして検討が必要である。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	城前観光案内所内にて、昨年度に引き続き、観光コンテンツの体験フェアを開催。また多目的スペースでは観光協会主催の写真コンテストの展示以外にも、個人による写真展などの活用や、近年増え続けているテレビ等のマスコミ対応用のスペースとして活用するなど新たな誘客と利活用の可能性を図ることができた。またコンテンツの内容もさらに充実することが出来た。
令和8年度に見直しを実施している事項	令和8年度も引き続き、多目的スペースの活用を進め、観光案内所が情報発信の場としての役割だけでなくコンテンツを体験できる場、市民が活躍できる場としての機能を高められるよう取組みを進める。
今後見直しを検討する事項	城前案内所は、情報提供・休憩等、多様な機能を有した観光交流拠点として更に充実させる。城下町から河畔、市域に点在するテーマパーク、自然資源等へのアクセスが円滑になるよう、自動車・自転車・タクシー等も含めた移動の拠点としての機能充実を図る。また増え続けるインバウンドにもさらに充実した対応が図れるよう、多言語対応の取り組みをすすめる。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
新たな観光コンテンツの造成に関連して、より多くの市民の方が活躍できる仕組みを構築すること。増え続けるインバウンドへの更なる対応の充実を検討すること。	観光案内所は情報発信・提供、休憩機能など多様な機能を有しており観光客の利便性と満足度向上に資する施設として役割を担っている。今後は魅力的で何度も訪れたい観光地となるため、「体験できる場」としての機能も確立していく必要があり、市民も観光に携わっているという意識が高まればより充実したコンテンツ造成を構築することができる。またインバウンドに向けてもおもてなしの魅力を発信することが出来れば、さらに外国人旅行者から選ばれる観光地となる事が出来る。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	経済環境部
款	項	目			課 名	観光課
6	2	1	観光費	294		

I：事業概要

施策事業名	観光施設管理											
事業目的	観光施設や観光トイレ等の維持管理を適切に行うことで、受入環境の向上を図るとともに、観光地としての良好なイメージを高め、来訪者の満足度を向上させる。											
事業内容	●全体の計画 ・トイレ、観光案内看板などの観光施設を継続して適切に維持管理を行う。 ●主な事業内容 ○観光トイレの定期的な清掃及び維持補修及び管理 ・観光トイレ等を通年で清掃や維持管理を行うことで、清潔さを保ち、観光客の利便性を高めた。 ・破損等が生じたトイレの維持補修を実施。 ○観光施設の除草剪定等の実施 ・観光施設の除草剪定作業を定期的に実施し、施設の適切な維持管理を実現。 ○案内看板の適正な維持管理 ・老朽化した各種看板等を修繕し来訪者の安全と利便性を高めた。 ○八曽もみの木キャンプ場避難小屋撤去 ・閉鎖により不要となった避難小屋の撤去を実施。 ●主の決算の内訳 <table><tr><td>・公衆便所・観光施設等修繕料</td><td>2,575,155円</td></tr><tr><td>・観光施設除草選定業務委託料</td><td>4,260,300円</td></tr><tr><td>・観光施設の巡回清掃及び公衆便所の清掃管理業務委託料</td><td>10,472,550円</td></tr><tr><td>・尾張富士公衆便所水中ブロワー取替工事請負費</td><td>1,624,700円</td></tr><tr><td>・八曽避難小屋解体工事請負費</td><td>935,000円</td></tr></table>		・公衆便所・観光施設等修繕料	2,575,155円	・観光施設除草選定業務委託料	4,260,300円	・観光施設の巡回清掃及び公衆便所の清掃管理業務委託料	10,472,550円	・尾張富士公衆便所水中ブロワー取替工事請負費	1,624,700円	・八曽避難小屋解体工事請負費	935,000円
・公衆便所・観光施設等修繕料	2,575,155円											
・観光施設除草選定業務委託料	4,260,300円											
・観光施設の巡回清掃及び公衆便所の清掃管理業務委託料	10,472,550円											
・尾張富士公衆便所水中ブロワー取替工事請負費	1,624,700円											
・八曽避難小屋解体工事請負費	935,000円											
事業の成果・効果	観光客のおもてなしにおいて、観光施設の適切な維持管理は必須である。清掃や除草剪定等の日常の維持管理はもちろんのこと、トイレの不具合等への迅速かつ的確な対応のほか、劣化が進んだ案内看板は順次修繕を実施するなど、適正に管理を行うことができた。											

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

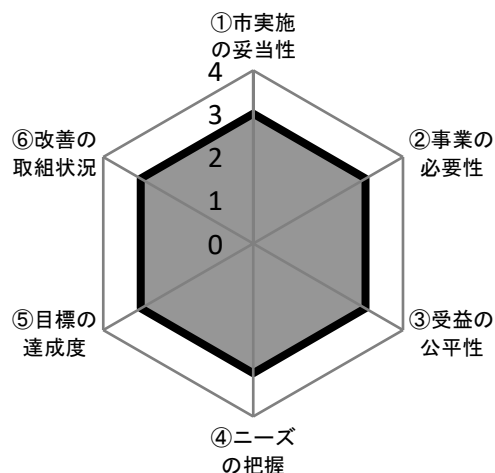
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光施設管理	23,784	23,784	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	23,784	23,784	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		19,460	23,784	24,837
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	19,460	23,784	24,837
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	公共施設として観光客の旅の利便性確保のため市が主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業であり、施設の適正な維持管理など受け入れ環境の充実が必要である。
③受益の公平性	3	トイレをはじめとした公共施設は、観光客だけでなく、市民の利用も多く、誰もが利活用可能である。観光駐車場利用者には料金を徴収しており、受益者負担を適切に実現出来ている。
④ニーズの把握	3	施設利用者や観光関係者、施設受託者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	公衆便所等の観光施設は維持管理を適切に実施出来ている。また、公衆便所は計画的に洋式化を行っている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	大型のブローアの修繕及び閉鎖された八曾キャンプ場の避難小屋除却などを実施。市内に設置している観光案内看板の状況確認や再点検を実施した。また破損等修繕の発生した箇所については適宜修繕を行うことができた。
令和8年度に見直しを実施している事項	二ノ宮上・下の公衆トイレの洋式化、観光案内所前のイチョウの木の剪定により銀杏の落下減少対応
今後見直しを検討する事項	公衆トイレや案内看板など、老朽化が進む施設も多く、快適なおもてなし環境を構築するために、効率的効果的な更新・修繕を実施していく。そのために、優先順位と必要性を十分精査し計画・実践を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課 題	対応策・今後の方向性
施設の計画的かつ効率的な更新。財源の安定的な確保、効果的な受け入れ環境整備の検討と設定。	適切な施設の維持管理を実現するためには、日常的な維持管理や点検等、効率的な運営を進める必要がある。老朽化に対する対応など、計画的に実施していく。また、管理者である職員の経験値を全体的に高めるとともに、ノウハウが共有できるような仕組みを構築していく。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	経済環境部
款	項	目			課 名	観光課
6	2	1	観光費	294		

I：事業概要

施策事業名	観光事業振興基金積立金
事業目的	将来の観光振興に係る経費の一部を積立し、一時的に多額の費用が必要となる事業が発生した場合に活用する。
事業内容	●主な事業内容 ○観光事業振興基金への積立 ・犬山温泉に係る入湯税の一部を基金の財源として積み立てる。 ○観光事業振興基金の取り崩し ・観光振興に一時的に大きな費用が生じる場合において、基金の一部を取り崩して活用する。 ※入湯税が確定した後に補正予算対応する。
事業の 成果・効果	観光事業振興基金は、入湯税の一部を基金として積み立て観光施設の建設費用や観光施策に関する事業費に役立てている。令和7年度は、基金を活用した事業は行わなかったが、基金の原資となる入湯税は、前年に比べ宿泊者数が増加したこともあり、前年度と比較して増額となった。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

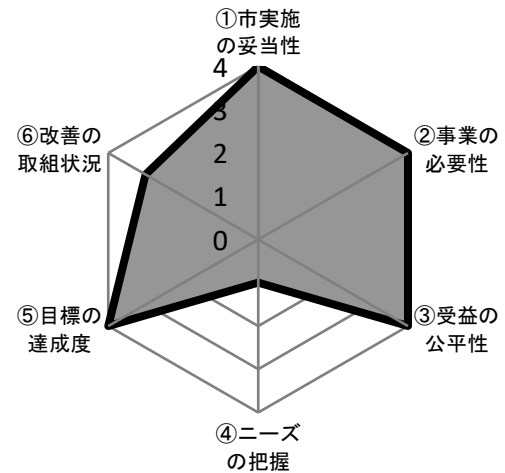
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
観光事業振興基金積立金	5,646	93	5,553	98%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,646	93	5,553	98%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		4,666	5,646	1
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	4,666	93	1
	一般財源	0	5,553	0
一般財源の割合		0%	98%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	条例で規定しており、市が将来において必要な観光事業に活用可能な財源確保の手法として必要な事業である。
②事業の必要性	4	計画的に基金として積み立てておくことで、経済状況が悪化した時においても、必要な設備等への投資が可能となり、継続的な観光振興のため、実施の必要がある。
③受益の公平性	4	基金の使途として、近年の事業として観光案内所やトイレ整備等に用いており、観光客だけでなく、広く市民に恩恵のある事業である。
④ニーズの把握	1	基金の使い道は市民及び観光客のニーズの高い事業に投じるものであるが、基金の積み立てそのものはニーズ把握をする性質のものではない。
⑤目標の達成度	4	基金運用、活用を効率的、効果的に行い、成果を得ている。
⑥改善の取組状況	3	特になし

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	令和7年度は、基金を活用した事業は実施することはなかった。
令和8年度に見直しを実施している事項	宿泊者数の増加による入湯税の増額を図り、基金の積み立てを促進することで、観光施設更新等の事業に取り組む。
今後見直しを検討する事項	将来における観光施策の実施に必要な事業費を確保するため、基金に計上する財源として入湯税だけでなく、観光駐車場使用料の一部や宿泊税等の観光税の導入を検討するなど他の財源確保を進めていく必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課 題	対応策・今後の方向性
継続的な積立と安全で効率的な運用を図る必要がある。	基金の安定的な積立のため、宿泊者数増加などの施策を進め、中長期的な視点で見直しを検討していく必要がある。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	経済環境部
款	項	目			課 名	観光課
6	2	1	観光費	294		

I：事業概要

施策事業名	木曽川うかい事業費特別会計繰出金
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	●全体の計画 ・1300年の歴史がある伝統漁法を保存継承するとともに、市の観光資源として活用する。 ●主な事業内容 ○木曽川うかいに係る観光宣伝 ・各務原市との協力体制を強化し、木曽川観光(株)とも連携し、各地での宣伝活動を実施。 ○若あゆ丸高質化後の宣伝及び利活用の検討及び企画実施 ・木曽川観光(株)や(一社)犬山市観光協会と連携し、高質化後の利活用を促すよう宣伝を実施。 ○鵜の飼育管理 ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を行った。 ○鵜匠の育成 ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として継続していくため、次世代の新規採用、運営の在り方や体制について継続して検討・協議を実施。 ○船頭の育成 ・伝統漁法の保存継承に欠かせない船頭に関し、次代を担う人材を継続して育成。 ○船会社の安定運営に関する助言・協力 ・木曽川うかい事業に不可欠な船会社(木曽川観光(株))の安定的な運営体制構築のため必要な助言・提言。 ●主な決算の内訳 ・木曽川うかい事業費特別会計繰出金 57,015,000円
事業の成果・効果	「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であり、重要な観光資源である。鵜飼観覧者数は、川の増水などの影響が今シーズン大きかったこともあり、前年比2%減の17,153人となった。 船頭育成事業については、引続き訓練を実施することができ、木曽川うかいの保存・継承のための取り組みの成果があった。

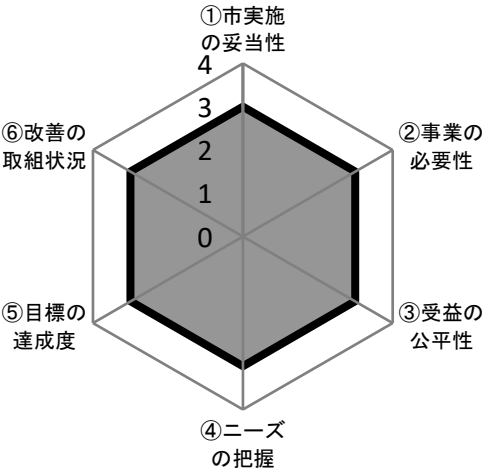
II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
木曽川うかい事業費特別会計繰出金	57,015	57,015	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	57,015	57,015	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		57,411	57,015	64,877
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	57,411	57,015	64,877
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定の文化財である木曽川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、市が主体的・継続的に実施すべきものである。
②事業の必要性	3	市指定の文化財である木曽川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、経済状況に関わらず継続的に実施すべきものである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民鵜飼などの実施により、市民により身近に感じてもらえる鵜飼を目指し、毎年実施している。令和7年度も多くの方にご応募いただきニーズがあると認識している。
⑤目標の達成度	3	船頭育成事業については、継続的に実施し、鵜舟の船頭である、とも乗り中乗りともに成長している。木曽川河畔の活性化にも鵜飼は貢献し、城下町地区から木曽川河畔への誘客にも貢献している。
⑥改善の取組状況	3	鵜飼実演の内容の見直しを実施。座敷鵜飼の精度をさらに高めていく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	人員が減少する中、継続した鵜匠の乗船に関する見直し、及び鵜飼の継続実施のための方針検討していく事が出来た。
令和8年度に見直しを実施している事項	鵜匠の後継者の確保・育成に向けた取組みを加速させる。市所有の屋形船「若あゆ丸」の積極的な営業を木曽川観光(株)と連携し進めていき、鵜飼観覧を始めとする川遊びの高質化を進め、市の歳入増にも努めていく。また、鵜匠の後継者確保・育成の先には、雨天時対応の座敷鵜飼の新たな可能性も検討し歳入確保に努めていく。
今後見直しを検討する事項	鵜舎を始めとした施設の老朽化に伴う更新検討、トラックの更新、鵜匠の後継者問題など、木曽川うかい事業の保存・継承・活用のため、見直し、改善すべき事項は多くある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舎や鵜飯小屋、鵜飼トラックなどハード面の老朽化に伴う更新。鵜匠・船頭など後継者についてのソフト面での課題など。	木曽川うかいは市の貴重な文化財であり、重要な観光資源である。今後も継続して発展する為には、鵜舎の建替えなど、施設の適切な更新が必要であり、随時検討を実施していく。また、鵜匠の後継者の課題についても方向性を定めることとしており、雇用・育成の在り方も含め検討を進める。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	経済環境部
款	項	目			課名	観光課
6	2	1	観光費	294		

I：事業概要

施策事業名	観光駐車場管理
事業目的	キャッスルパーキングと内田観光駐車場を一体的に管理運営することで、城下町エリアに訪れる観光車両を効率的に受け入れるとともに、利用料による自主財源の確保を図る。
事業内容	●全体の計画 2つの公共駐車場を一体的かつ適正に管理運営を行い、自主財源を確保する。 ●主な事業内容 ○キャッスルパーキングと内田観光駐車場の一体的な管理運営 - キャッスルパーキング及び内田観光駐車場を効率的に運営。 - キャッスルパーキング満車時には内田観光駐車場へ誘導し混雑緩和を図るなど適切に管理。 - 混雑時には内田多目的広場を活用し利用料を得て自主財源確保に努めた。 - 繁忙期を特定日として設定し異なる使用料設定することで、混雑緩和の検証と財源確保。 ●主な決算の内訳 - 印刷製本費（駐車券）559,152円 - 修繕料533,500円 - 観光駐車場管理業務委託料30,294,000円
事業の成果・効果	城下町地区にある2か所の公共駐車場（キャッスルパーキング、内田観光駐車場）の使用料については、令和6年度から観光繁忙期の土日祝を特定日と設定する料金改定を実施し、その実施日を21日間から46日間へ増加。特に大きなクレーム等も起きていないことから、今後の財源確保に向け、大きな事業成果の礎とすることができた。駐車場の維持管理及び運営については、周辺の交通渋滞や混雑を緩和するため、受託事業者と連携し、観光車両の円滑な誘導を行うことで、地域住民の生活への影響を軽減することに努めた。

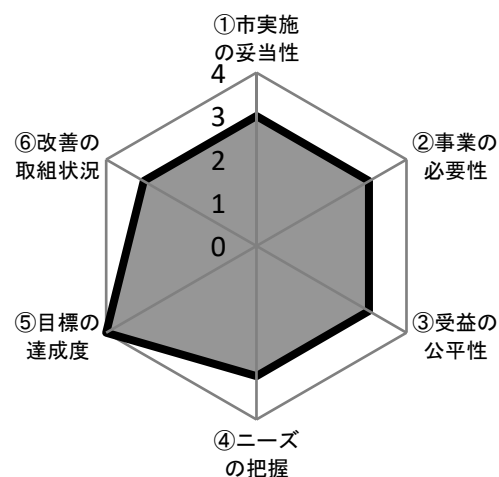
II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光駐車場管理	32,581	32,581	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	32,581	32,581	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		32,189	32,581	40,201
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	32,189	32,581	40,201
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	受け入れ環境を整備し、観光客の旅の利便性確保のため、主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、受け入れ環境の整備は必要な事業である。また、渋滞緩和や混雑改善のため、地域住民への生活支障を少しでも軽減させるため、施設の整備は必須である。
③受益の公平性	3	渋滞緩和等の交通状況の改善を図り、周辺住民への影響を軽減させることになり、必要な事業である。また駐車場利用者には料金徴収し、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	3	観光客(利用者)や観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	4	利用台数は大きな変化はなかったが、繁忙期の料金改定に伴い、収益の増加に貢献し、目標を達成することができた。
⑥改善の取組状況	3	駐車場の使用料の見直しの検討を進め、令和6年度に試験的に実施できるよう条例改正などへの対応も進めた。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	財源確保と混雑改善の観点から、観光駐車場の使用料の特定日を令和6年度より観光繁忙期の土日を中心に実施しており、令和6年度21日間の実施から46日間へ増加させた。
令和8年度に見直しを実施している事項	特定日について、さらに日数を増やし、収入増及び、季節・曜日にとらわれない平準化に努める。また、渋滞緩和対策及び利用満足度向上のため、駐車場のキャッシュレス化を進める。
今後見直しを検討する事項	駐車場使用料見直しによる効果・影響の精査をさらに行う。また、駐車場夜間照明のバッテリーの使用期限が過ぎていることから、計画的な修繕を実施していく必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
繁忙期における渋滞時の周辺地区住民への影響を最小限に抑える適切な対応の検討・実施。及び駐車場の使用料変更に伴う検証。	駐車場管理は安定的な収益と適切な運営がある程度実現できている。しかしながら、ピーク時の適切な対応方法など、改善すべき点も多くあるため、引続き受託者等と十分な協議を行い、更なる改善を図る。また、安定的な観光施策推進のため財源確保は重要な観点であり、令和8年度は特定日の日数をさらに増加し、観光施策のための財源増と観光分散による平準化に努めていく。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	経済環境部
款	項	目			課 名	観光課
6	2	1	観光費	294		

I：事業概要

施策事業名	観光戦略
事業目的	令和3年度策定の犬山市観光戦略に記載の「目指す姿」実現のため、8つの重点プロジェクトを中心に各施策を実施する。また犬山観光を取り巻く環境の変化に対応するとともに、新しい時代様式に合った持続発展する観光地となるよう、戦略的な観光施策を進める。附属機関である観光戦略会議を年1回開催し進捗把握と管理を行う。
事業内容	●全体計画（経緯） ・令和元年度：観光に係る調査・分析、観光まちづくり会議開催 ・令和2年度：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会議開催が困難となったため、コロナによる影響や将来の観光動向などを研究。 ・令和3年度：「犬山市観光戦略」策定、観光まちづくり会議開催 ・令和4年度：犬山市観光戦略重点事業の実施。庁内調整会議開催、推進体制会議開催、観光まちづくり会議の開催（本町通り対話の場設定）。定点観測のための消費動向アンケートを名古屋経済大学と共同で実施。 ・令和5年度：観光戦略における計画の進捗確認（観光戦略会議の開催：8月） ・令和6年度：観光戦略における計画の進捗確認（観光戦略会議の開催：8月） ・令和7年度：観光戦略における計画の進捗確認（観光戦略会議の開催：8月） ●主な事業内容 ○観光戦略の推進 ・重点事業の検討及び実施、各種調整及びマッチングの取組みを推進。 ・観光戦略の進捗状況を把握、確認、検証するため犬山市観光戦略会議を開催。 ○観光まちづくり会議の開催 ・観光を切り口とした課題解決に向けた会議の継続開催（SDGs観光まちづくり会議の開催）。 ●主な決算の内訳 ・観光戦略会議委員報酬・費用弁償 60,300円
事業の成果・効果	犬山市観光戦略に計上した各施策を推進するとともに、進捗状況を確認し、PDCAサイクルの中で事業内容の精査や把握、見直しができるような体制と仕組み構築を図っている。令和7年8月に開催した犬山市観光戦略会議では委員から助言・提案を受け、その後の施策展開に活かしている。

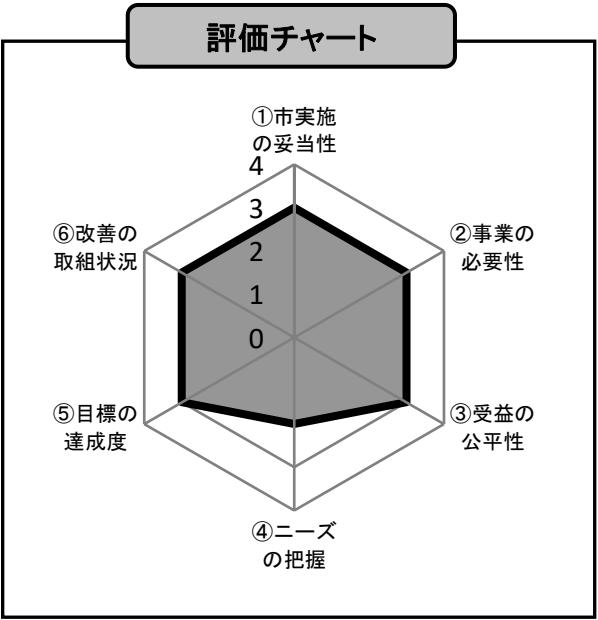
II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光戦略	61	0	61	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	61	0	61	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		74	61	180
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	74	61	180
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	本市が策定した犬山市観光戦略であり、関係部署・機関と協議や連携しながら展開していく必要がある。
②事業の必要性	3	持続可能な観光まちづくりを実現するため、有識者等に評価・検証を受けることで犬山市観光戦略のPDCAサイクルを着実に推進していく必要がある。
③受益の公平性	3	市民にとって郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げに資する取組みである。
④ニーズの把握	2	犬山市観光戦略の策定時に観光客へのアンケート調査及び位置情報データを活用した調査を実施し、ニーズの把握に努めている。
⑤目標の達成度	3	進捗把握及び評価のために附属機関である観光戦略会議を令和7年8月に実施した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	令和4年度より開始した「犬山市観光戦略」に基づき、有識者からの提言・助言を得るために継続して観光戦略会議を開催した。委員からは現在進めている事業や今後進むべき方向性についての助言や意見をいただき施策推進に活かすことが出来た。
令和8年度に見直しを実施している事項	計画の中間見直しの時期が近づいていることから、目標数値等の具体的な変更などの見直し、検証を行う必要がある。
今後見直しを検討する事項	令和9年度には計画の中間見直しを実施。犬山市観光戦略会議は定期的開催予定であり、その都度、進捗や状況について助言・提案を受け、施策の見直しや改善を図ることとなる。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課 題	対応策・今後の方向性
観光戦略の課題の一つである「観光客と住民の調和・共存」の為の取組みを住民、事業者、団体等も巻き込みながら推進する必要がある。	令和3年度末に策定した犬山市観光戦略の各施策を推進するとともに、進捗状況を確認し、PDCAサイクルの中で事業が確実に推進できるような体制と仕組みを構築して持続可能な観光まちづくりを実現する。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	経済環境部
款	項	目			課 名	観光課
6	2	1	観光費	294		

I：事業概要

施策事業名	木曽川河川空間活性化
事業目的	木曽川河畔の栗栖地区及び内田地区のそれぞれにおいて整備等の取組みを進め、木曽川河川空間の価値と質を高めることにより、市民及び観光客が楽しむことができる、賑わいと憩いの場を形成する。また、整備等により新たな価値と利益を生み出すことを目的とする。
事業内容	●全体計画 ・河川空間活性化のために必要な検討と事業の実施を進める。年度ごとの取組みを経て、新たな価値と質の高まりを目指す。 ●主な事業内容 ○木曽川河畔遊歩道整備に向けた取組みの推進（木曽川河畔活性化事業実施支援業務関連） ・かわまちづくり計画作成、地域住民等との意見交換・実証事業、整備方針の検討。 ○栗栖園地南側の整備 ・木曽川河川敷内、栗栖園地南側の土地造成（整地）と芝生貼り。 ●主な決算の内訳 ・木曽川河畔活性化事業実施支援業務委託料 4,400,000円 ・栗栖園地整備工事請負費 2,498,100円
事業の成果・効果	・かわまちづくり計画が、令和7年8月に認定を受け、今後国と共に整備を進めていくこととなった。 ・木曽川河畔の栗栖地区において栗栖園地の整備を実施し園地の拡充を進めた。 ・木曽川河畔遊歩道の整備に向け地元住民と協働で模擬店の出店、竹あかりによるライトアップ等の実証事業を実施。木曽川河川全体における価値と質を高め、美しい景観と良好な河川空間形成の実現に向けた事業を進めることが出来た。

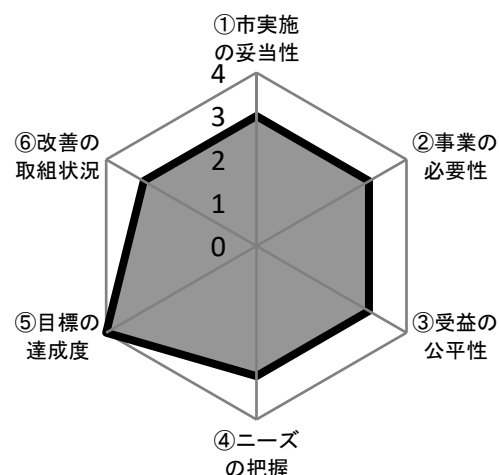
II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
木曽川河川空間活性化	7,861	6,697	1,164	15%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,861	6,697	1,164	15%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		71,185	7,861	17,922
財源内訳	国県支出金	10,096	6,697	6,326
	地方債	0	0	0
	その他	50,000	0	1,688
	一般財源	11,089	1,164	9,908
一般財源の割合		16%	15%	55%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	河川の占有者は犬山市であり、河川敷内の維持管理及び事業展開を市が適切に実施することで良好な河川空間の形成が実現すると考える。
②事業の必要性	3	新しい河川空間の形成により、郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げ、賑わい創出に資する取組みである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	内田でのワークショップ及び栗栖での芝張り体験を実施する中で、市民の意見の収集が実現している。市民参加型の取組みとなることでニーズの把握にも努めている。
⑤目標の達成度	4	内田での実証事業とワークショップ、栗栖園地での整備を実施したことでいずれも目標に達している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	かわまちづくり計画認定のための準備及び、認定後の国との調整を随時進めることを実施
令和8年度に見直しを実施している事項	かわまちづくり計画の具体的な役割分担や、進め方を国と調整し、地元住民への説明会についても適宜行っていく。
今後見直しを検討する事項	具体的な設計や、河川空間の活用方法、事業者選定の手法など河川空間の高質化を図るための取組みを継続して検討していく必要がある

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
木曽川河畔遊歩道の整備は河川内かつ道路であることから整備方針や施工方法、さらには管理方法等についても関係機関との協議を進めていく必要がある。	木曽川河畔遊歩道の整備については、犬山城下町周辺の観光ルートの回遊性を高めるために市民及び観光客にとって、郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げに資する非常に重要な施策である。美しい景観と良好な河川空間形成を実現できるよう様々な実証事業を展開するとともに、市民との意見交換も踏まえ効果を測りながら推進していく。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

特別会計名	決算書(P)	部局名	経済環境部
木曽川うかい事業費特別会計	450	課 名	観光課

I：事業概要

施策事業名	一般管理
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	●全体計画 ・1300年の歴史がある伝統漁法を保存継承するとともに、市の観光資源として活用する。 ●主な事業内容 ○木曽川うかいに係る観光宣伝 ・各務原市との協力体制を強化し、木曽川観光(株)とも連携し、各地での宣伝活動を実施。 ○若あゆ丸高質化後の宣伝及び利活用の検討及び企画実施 ・木曽川観光(株)や(一社)犬山市観光協会と連携し、高質化後の利活用を促すよう宣伝を実施。 ○鵜の飼育管理 ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化。 ○鵜匠の育成 ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として継続していくため、次世代の新規採用、運営の在り方や体制について継続して検討・協議を実施。 ○船頭の育成 ・伝統漁法の保存継承に欠かせない船頭に関し、次代を担う人材を継続して育成。 ○船会社の安定運営に関する助言・協力 ・木曽川うかい事業に不可欠な船会社(木曽川観光(株))の安定的な運営体制構築のため必要な助言・提言。 ●主な決算の内訳 ・飼料費3,614,220円 ・鵜飼保存・活性化事業委託料11,057,548円 ・鵜舟・屋形船出船業務委託料10,528,739円
事業の成果・効果	「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であり、重要な観光資源である。令和7年鵜飼観覧者数は、前年比2%減の17,153人となった。 船頭育成事業については、引続き訓練を実施することができ、木曽川うかいの保存・継承のための取り組みの成果があった。

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

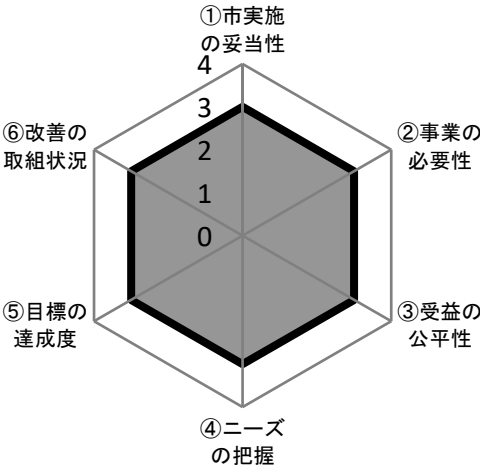
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	報発信・共有	業務適正化
一般管理	31,429	31,429	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	31,429	31,429	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況（単位：千円）

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		30,001	31,429	36,363
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	30,001	31,429	36,363
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価（PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定の文化財である木曽川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、市が主体的・継続的に実施すべきものである。
②事業の必要性	3	市指定の文化財である木曽川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、経済状況に関わらず継続的に実施すべきものである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民鵜飼は、市民により身近に感じてもらえる鵜飼を目指し、毎年実施している。令和7年度も多くの方にご応募いただきニーズがあると認識している。
⑤目標の達成度	3	船頭育成事業については、継続的に実施し、鵜舟の船頭である、とも乗り中乗りともに成長している。木曽川河畔の活性化にも鵜飼は貢献し、城下町地区から木曽川河畔への誘客にも貢献している。
⑥改善の取組状況	3	座敷鵜飼の演目及び演出設備の見直し、新たな実施場所の確保など歳入増を目指していく。

Ⅴ：業務の総点検（PDCAサイクルのC→A）

令和7年度に見直しを実施した事項	人員が減少する中、継続した鵜匠の乗船に関する見直し、及び鵜飼の継続実施のための方針検討していく事が出来た。
令和8年度に見直しを実施している事項	鵜匠の後継者の確保・育成に向けた取組みを加速させる。市所有の屋形船「若あゆ丸」の積極的な営業を木曽川観光（株）と連携し進めていき、鵜飼観覧を始めとする川遊びの高質化を進め、市の歳入増にも努めていく。また、鵜匠の後継者確保・育成の先には、雨天時対応の座敷鵜飼の新たな可能性も検討し歳入確保に努めていく。
今後見直しを検討する事項	鵜舎を始めとした施設の老朽化に伴う更新検討、トラックの更新、鵜匠の後継者問題など、木曽川うかい事業の保存・継承・活用のため、見直し、改善すべき事項は多くある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性（令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
鵜舎や鵜仮小屋、鵜飼トラックなどハード面の老朽化に伴う更新。鵜匠・船頭など後継者についてのソフト面での課題など。	木曽川うかいは市の貴重な文化財であり、重要な観光資源である。今後も継続して発展する為には、鵜舎の建替えなど、施設の適切な更新が必要であり、随時検討を実施していく。また、鵜匠の後継者は雇用、育成具体的に進めていく。